
 その他

順天堂大学保健看護学部 順天堂大学保健看護研究12
P.32-39 (2024)

2023 年度新入生スタートアップセミナーの取り組み

Freshman Student Start-Up Seminar Initiatives for 2023

榎本佳子 ¹⁾ ENOMOTO Yoshiko	山本哲子 ¹⁾ YAMAMOTO Tetsuko	辻川比呂斗 ¹⁾ TSUJIKAWA Hiroto	川田梨絵 ¹⁾ KAWATA Rie
土居稚奈 ¹⁾ DOI Wakana	影山孝子 ¹⁾ KAGEYAMA Takako	林亮 ¹⁾ HAYASHI Ryo	青木真希子 ¹⁾ AOKI Makiko
長沼淳 ¹⁾ NAGANUMA Atsushi	濱田千江子 ¹⁾ HAMADA Chieko	石塚淳子 ¹⁾ ISHIZUKA Junko	谷田部航 ¹⁾ YATABE Wataru
大熊泰之 ¹⁾ OKUMA Yasuyuki	小池道明 ¹⁾ KOIKE Michiaki		

要旨

順天堂大学保健看護学部では、2010年の開学以来、初年次教育の一環として新入生を対象とした研修会を実施している。2010年から2016年は、レクリエーションスポーツやグループディスカッションを通して自己理解、他者理解を深める2日間の宿泊研修を、2017年から2022年は新入生スタートアップセミナーとしてチームビルディング体験を核に据えた研修会を本学部内にて実施してきた。今回、12年間実施してきた研修を見直し、課外活動を取り入れた1日完結型の研修会を実施した。その結果、学生からは9割以上が“概ね満足”、教職員からは8割以上が“概ね良かった”と回答を得た。また、今回の研修について8割以上の学生が、“今後の学生生活に活かせる”と回答していた。自由記述からは、「感染対策を考えることで、これから医療従事者となる意識が高まった」等の意見も聞かれ、看護学生としての意識づけにもつながったことが示唆された。入学直後に新入生を対象とした研修会を実施するのは、学生、教職員両者にとって負担ではないかとの指摘もあったが、新入生にとってこれからの大学生活をより安心してスタートさせるための一助になったのではないかと考える。

索引用語：初年次教育、看護学生、準正課教育

Key words：First-year Education, Nursing student, Post-secondary education

1. はじめに

初年次教育とは、1970年代後半からアメリカの高等教育機関において導入され、2000年代に日本にも広まってきた教育プログラムである¹⁾。日本における

初年次教育は、高校から大学への円滑な移行を支援するための教育として、学業面での移行のみならず、新入生の自己肯定感を向上させ、大学というコミュニティへの帰属意識を持たせることで、人間関係を円滑化することを目的とし、実際に寄与してきたと言われている²⁾。順天堂大学保健看護学部（以下、本学部とする）では、2010年の開学以来、初年次教育の一環として学生部委員会が実行委員となり新入生を対象

1) 順天堂大学保健看護学部

1) *Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing*

(Nov. 20, 2023 原稿受付) (Nov. 20, 2023 原稿受領)

とした研修会を実施している。2010年から2016年は、レクリエーションスポーツやグループディスカッションを通して自己理解、他者理解を深める2日間の宿泊研修を、2017年から2022年は新入生スタートアップセミナー（以下、SUSとする）としてチームビルディング体験を核に据えた研修会を本学部内にて実施してきた。その効果として、新入生同士の希薄な関係性がより密となる場の提供が可能となったことや³⁾、「他者受容」や「前向き思考」、そして「リーダーシップ」が向上し、学生が主体的に仲間と協力して進めていける下地作りとなったことが明らかにされている⁴⁾。

今回、12年間実施してきたSUSを見直し、より効果的な初年次教育となるようワーキンググループを立ち上げ、検討を行った。主な検討内容は、SUSの位置づけと研修内容の見直しであった。SUSの位置づけについては、文部科学省からの報告に、「これからの大学では、学生に豊かな知識を教授するのみならず、教職員が学生との人間的なふれあいを通じ、切磋琢磨しながら高い倫理性とともに多様化した社会の中で生き抜くための基本的な能力の涵養に努めていくことが求められる⁵⁾」とあり、正課外教育の必要性について述べられていたことを踏まえ、2023年度のSUSを準正課教育と位置づけ、全教職員が関わることとした。また、実施目的をディプロマ・ポリシー、コンピテンシーと合わせることで、本学部の教育的意図に基づいた研修会となるよう位置づけを行った。次に、具体的なプログラム内容について検討を行った。2022年度に実施した順天堂大学学生生活実態調査において、本学部の学生は、「対人関係に不安や悩みがある」と回答したものは3割を超え、前年度と比較すると0.5%であるが増加していた。これは2019年以来、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19とする）によりオンライン授業の導入や学校行事の縮小などにより人間関係が変化したことが少なからず影響していることが考えられた。そこで、感染対策を徹底しながらも学

生や教職員が共に交流を持てる機会を増やした研修会が実施できないか検討を行った。その結果、2023年4月時点では、COVID-19の感染症法上の位置づけは2類相当ではあったが、感染対策を徹底したうえで学外にてBBQの要素を取り入れたShare Style Lunchを研修内容に取り入れることとなった。今回、新たな試みとして実施した1日完結型のSUSの実施内容および評価について報告する。

II. 研修内容

1. 概要

本セミナーは、準正課教育「卒業要件には含まれず単位付与は行わないが、本学部の教育的意図に基づいて教職員が関与・支援する教育活動⁶⁾」の一環として位置づけ、順天堂人として「他への思いやり、慈しむ心を備え、良好な人間関係を築くことができる能力」を育む研修とする。

2. 研修の位置づけ

学生と教職員との共同作業を通して、今後の学生生活の円滑な開始を促進する学修とする。

3. ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連

DP1-C1：「仁」の精神に基づいた看護を実践する能力
順天堂大学の学是である「仁」の精神の意味を理解し、「仁」の精神を行動規範とし、他者を敬う行動がとれること

DP1-C3：人間関係を構築できるコミュニケーション能力

良好な人間関係を構築するためのコミュニケーションが実践でき、看護する対象と援助的関係を構築することができること

4. 到達目標

1) 「仁」の精神を基に看護学生として他者を守るた

めの感染対策の行動を実践できる。

- 2) コミュニケーション場面において、自らの意見を述べることができる。
- 3) チームメンバーに自己開示ができ、他者の意見を傾聴することができる。

5. 実施日・実施場所

実施日：2023年4月8日（土）8時50分～16時30分

実施場所：順天堂大学保健看護学部キャンパス、桃沢野外活動センター

6. プログラム（表1）

事前課題として次の3つを提示した。

- ① 4月3日～8日までの健康管理表を正しく記載し持参する。
- ② 4月17日から始まる地域包括ケア探索実習にむけて、看護学生として日々の生活においてどのような感染対策行動をとるべきか各自で考える。
- ③ 自己紹介用の名札を作成する。名札には、メンバーに呼ばれたい名前を必ず記載する。

研修会は、学内でのワークと課外活動の二部制で実

施した。

7. SUS 実施について

SUS 担当者3名がファシリテーターとして45名程度の学生を担当した。本学部学生部委員会は、実行委員として運営補助を行った。学生のグループ編成は、本学部はアドバイザー制を導入しており、1学年8～9名で構成されるアドバイザーグループにて活動を行った。教員配置は、担当するアドバイザーグループとし、2～3名の教員が担当した。

プログラムの構成としては、①感染対策をすること、②BBQでのランチによるコミュニケーションを図ることの相反する内容について共に達成するために、自治会役員からの情報提供～グループワーク（意見出し）～ランチ～グループワーク（振り返り・分かち合い）という構成で、体験出来るように配置を工夫した。

1) 第一部：学内にてグループワーク（図1）

始めに、先輩学生である自治会執行役員から自治活動ならびに防犯感染対策について説明を受けた後、グループワークを実施した。事前に作成してきた名刺サイズの名札を用いて、「氏名」「自分を表すこと（趣味や好きなこと）」など自由に自己紹介を行った。最初は緊張した様子であったが、共通した趣味や出身地な

表1 2023年度新入生スタートアップセミナープログラム

時間	内容
9:00～ 9:20	<全体> 1. 自治会執行役員からの自治活動についての説明 2. 防犯感染対策委員より現在実施している防犯感染対策についての説明
9:25～ 10:45	<グループ活動：各教室> 3. 自己紹介、リーダー決定 4. 看護学生として「他者を守る」感染対策について考える 1) 実習にむけてこの1週間でどのように感染対策して過ごすか →事前課題を共有し、グループでの意見を用紙にまとめる 2) 後半のワークでどのように感染対策をグループで実践するか →グループでの意見を配布する用紙にまとめる 3) 発表：1G 5分（30分）
10:45	バスにて桃沢野外活動センターへ移動
11:00～ 14:00	5. Share Style Lunch：外部講師によるガイダンス 食を通してのコミュニケーションや仲間との協力、食育などを学ぶ
14:00～ 14:30	片付け、振り返り バスにて大学キャンパスへ移動
15:00～ 16:15	<グループ活動：各教室> 6. 1日の振り返り・発表 7. 今後の目標設定：各自の目標設定とグループ共有
16:15～ 16:30	<全体> 閉会式、解散

図1 グループワークの様子



図2 BBQの様子



図3 閉会式でのエール交換



どを見つけることで、互いに対する認識が深まった。次に、事前課題を基に、看護学生として「他者を守る感染対策とは」をテーマに、①実習にむけた過ごし方について、②第二部で行う BBQ にて感染対策を行いながらどう楽しむか、の2点について話し合いを行った。

2) 第二部：学外にて学生と教職員による Share Style Lunch (BBQ) (図2、3)

外部講師をお招きし、始めに、概要のイントロダクションの後に、各グループ(2班合同)でハンバーガー作りを行った。単にキャンプ場の BBQ 場での焼肉ではなく、コンセプトを設けた上で互いに協力し合う形式での Sare Style BBQ⁷⁾による Share Style Lunch を実施した。Share Style BBQ では、食の「楽しい」と「美

味しい」の再現性を高める事を追求しており、構造的には看護でも有名な心理学として学習するマズローの基本的欲求の階層図⁸⁾に従い、生存、安全といった物質的な欲求を担保した上で、参加者達に役割を与え(所属欲求)つつ、互いに感謝しあえるような形(承認欲求)で実施された。具体的には、好き嫌いのある学生もいたが、それぞれ好みに合わせてハンバーガーを完成させ、次に、お肉や野菜を豪快に調理しグリルで焼く作業を行った。調理が得意なものは下ごしらえを、調理が苦手なものはテーブルのセッティングをするなど、それぞれ学生が自分のできることを考え、役割分担しながら実施した。食事は黙食であったが、学生と教員が共に食事をする事で終始にこやかな笑顔に包まれながら食事をする事ができた。BBQ 実施後は学内に戻り、1日の振り返りをグループ内で行った。閉会式では、全員で今後の学生生活にエールを送り研修会が終了となった。

III. 結果

1. 学生アンケート結果

2023年度新入生スタートアップセミナーに参加した感想について学生からは、クラウド型教育支援システムを利用し回答を得た。アンケートは、次年度の SUS 企画・運営方法の参考資料として活用すること、

表2 プログラム内容について

	n	%
満足	97	(81.5)
やや満足	19	(16.0)
わからない	2	(1.7)
やや不満	1	(0.8)
不満	0	(0.0)

回答によって不利益が生じることはないことを記載し、自由回答とした。参加者 131 名のうち 119 名より回答を得た（回収率・有効回答率 90.8%）。

1) プログラム内容について（表2）

プログラムの満足度は、「満足」97名（81.5%）、「やや満足」19名（16.0%）、「わからない」2名（1.7%）、「やや不満」1名（0.8%）、「不満」0名（0%）であった。

プログラムに関する主な自由記述は、以下のように挙げられた。

①肯定的意見

- ・話したことのない同級生や先生方とのコミュニケーションをとることができたため、大学生活の不安感が少なくなった
- ・まだ入学したてで話したことがない人が沢山いる中、このような活動を通して沢山の人と関わり話すことができた。また、感染対策も一緒に考えられて良かった。
- ・感染対策を考え、これから医療従事者になるという意識が高まった。

②否定的意見

- ・目標設定と反省についてまとめる項目が分かりづらかった。
- ・バーベキューの後のグループワークや発表が少し大変だった。

2) 今回の研修が学生生活に活かせるか（表3）

研修が今後の学校生活に活かせるかについての回

表3 今回の研修を学生生活に活かせるか

	n	%
活かせる	95	(80.7)
やや活かせる	19	(16.0)
わからない	5	(4.2)
あまり活かさない	0	(0.0)
活かさない	0	(0.0)

答は、「活かせる」95名（80.7%）、「やや活かせる」19名（16.0%）、「わからない」5名（4.2%）、「あまり活かさない」0名（0%）、「活かさない」0名（0%）であった。

3) 研修会に参加した感想

研修会に参加した主な感想は、以下のように挙げられた。

- ・年齢を重ねるにつれて行くことが少ない自然があるところで、色々なことが体験できたことが本当に良かったし、楽しかったです。貴重な体験をありがとうございました。
- ・学生だけではなく、先生方との親睦を深めるために、今回のような企画を行ってほしいと思いました。
- ・高校生から看護学生という立場になり、より一層コロナに対する危険性や対策を考えなければいけなくなった。これからの実習や大学生活にむけて基本的な感染症対策を徹底しながら、その中でも楽しんで学びを深めていきたいと思った。

2. 教職員アンケート結果

教職員へはインターネットアンケートを利用し回答を得た。参加者 35 名のうち 24 名より回答を得た（回収率・有効回答率 68.6%）。

1) プログラム内容について（表4）

プログラムの満足度は、「良かった」10名（41.7%）、「まあまあ良かった」9名（37.5%）、「どちらともい

表4 プログラム内容について

	n	%
良かった	10	(41.7)
まあまあ良かった	9	(37.5)
どちらともいえない	4	(16.7)
あまり良くなかった	1	(4.2)
良くなかった	0	(0.0)

えない」4名(16.7%)、「あまり良くなかった」1名(4.2%)、「良くなかった」0名(0%)であった。

プログラムに関する主な自由記述は、以下のように挙げられた。

①肯定的意見

- ・学生のコミュニケーションのきっかけ作りとして有効であったと思う。大学の教員との触れ合いになった。
- ・学生の表情がとてもよかったと思う。BBQを通じて徐々に硬さもとれ、午後のワークでの積極性が増していたように感じた。
- ・BBQではみんなで話し合って調理をおこない、親睦会としてはよかったと思う。

②改善等に関する意見

- ・学生たちの交流は深まったため、当初目的の仁の素地にはなったと考えるが、到達目標として感染対策行動がとれるというのは、達成できていなかったように思う。
- ・どの到達目標とプログラムの内容が関連しているのかわかりづらかった。到達目標と実施している内容に乖離が見られるように思った。
- ・去年から内容が変わったようで、SUSの目的が曖昧な気がした。親睦を深める事なのか、順天堂大学について学び学風を感じる機会にするのか、SUSとは、どういうスタンスなのかを教員にも教えていただけるとありがたい。

表5 開催時期について

	n	%
適切である	18	(75.0)
どちらともいえない	4	(16.7)
適切でない	2	(8.7)

表6 今後のSUS実施について

	n	%
今後も継続したほうがよい	16	(66.7)
わからない	6	(25.0)
実施しないで良い	2	(8.3)

2) 開催時期について(表5)

入学直後の4月第一週目土曜日の開催について、「適切である」18名(75.0%)、「どちらともいえない」4名(16.7%)、「適切でない」2名(8.7%)であった。

開催時期に関する主な自由記述は、以下のように挙げられた。

- ・新1年生の情報がないので初めに行うのはタイムリーで良いと思う。ただ、教員の仕事も落ち着かない時期で、もう少し経過してからの方がゆとりを持って学生に対応できるのかなと思った。
- ・一人暮らしを始めたばかりの学生にとっては、不安の大きい時期でもあるため適切な時期と考える。

3) 今後のSUS実施について(表6)

今後、継続してSUSを実施したほうが良いかについては、「今後も継続したほうがよい」16名(66.7%)、「わからない」6名(25.0%)、「実施しないで良い」2名(8.3%)であった。

今後のSUS実施に関する主な自由記述は、以下のように挙げられた。

①継続したほうがよい理由

- ・学生同士だけでなく学生と教員も交流を深めるこ

とができたため。

- ・アドバイザーである1年生全員の面談は終了していたが、友達ができるか等心配している学生が多かった。SUSはその点知り合う機会になり、意味ある活動であると思われる。
- ・高校までとは異なり、多くの人が知り合いの少ない状況で入学されてくるので、学内だけでなくアクティビティを取り入れながら学生間で交流を深められる機会は大切な気がする。教員にとっても、普段の授業では見られない学生の一面を見ることが出来るため、学生を知るよい機会になると思う。

②わからない、実施しないでよい理由

- ・時期や方法によっては、教員学生両方の負担が高くなり、あまり効果がないかもしれない。
- ・基本的に実施しなければいけないものなのか、他の行事等で補えるものか、再度、検討しても良いのではないか。
- ・教職員と学生の双方の負担を考え、SUSが必要なかを再検討する必要があると思う。

IV. まとめ

今回、本学部の初年次教育の一環である新入生を対象とした研修会を見直し、課外活動を取り入れた1日完結型のプログラムに変更し、SUSを実施した。学生からの評価は9割以上の学生が「満足」「やや満足」と回答していること、教員評価では8割弱が「良かった」「まあまあ良かった」と回答しており、プログラムとしては概ねよかったのではないかと考える。特に自由記述にあるように、学生間だけでなくアドバイザー教員とも親睦が図れたことは、新入生が不安なく学生生活をスタートさせるための一助となったのではないかと考える。また、「感染対策を考えることで、これから医療従事者となる意識が高まった」等の意見も聞かれ、看護学生としての意識づけにもつながったことが示唆された。開催時期については、新年度の時

期であったため、学生ならびに教員負担が大きかったのではないかという意見も聞かれたが、学生からの評価として「負担であった」との意見はほとんどなく、「仲良くなれて楽しかった」という意見が多く聞かれ、SUSを早い時期に実施することは、学生にとっても支援する教員にとっても効果的ではないかと考える。

今後の課題は、到達目標の見直しと目標に沿った研修内容になるようプログラムをブラッシュアップすることである。今回の結果を踏まえ、次年度のSUSに活かしていきたい。

謝辞

2023年度の新入生スタートアップセミナー実施に際し、ご協力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 川井宏之：大学における初年次教育の現状と課題, 人間生活文化研究, 26, 232-238, 2016.
- 2) 山田玲子：ウィズコロナ・ポストコロナの初年次教育, 初年次教育学会誌, 15(1), 42, 2023.
- 3) 辻川比呂斗, 江川潤, 林亮, 他：看護系大学新入生キャンプにおけるセラピューティックレクリエーションプログラムの試み, 順天堂大学保健看護研究, 4, 42-48, 2016.
- 4) 鈴木江里子, 林亮, 辻川比呂斗, 他：新入生スタートアップセミナー2018「仁（JIN）への道」の取り組み, 順天堂大学保健看護研究, 7, 87-93, 2019.
- 5) 文部科学省（2000.6）：大学における学生生活の充実方策について（2023.11.14閲覧）
<https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm>
- 6) 村田晋也, 小林直人：正課教育、準正課教育、正課外活動～「愛大学生コンピテンシー」育成のた

めに～, 大学時報, 364, 42-47, 2015.

- 7) 岩井慶太郎: Share Style BBQ コンセプト (2023.11.16 閲覧)

<<https://sharestylebbq.com/concept/>>

- 8) 廣瀬清人, 菱沼典子, 印東桂子: マズローの基本的欲求の階層図への原典からの新解釈 聖路加看護大学紀要, 35, 28-36, 2009.